

ておけるよう、なんらかの形で彼を記念し…」と記しています。

ウィルキンソンは『1872年12月20日に寄せて』の中で述べています。「今日神の種が神と聖霊とによって運ばれていくのは幼い子どもたちの心の中にもありません。その種が芽を出して実を結ぶよりずっと

前に、私たちはこの世を去っているかもしれない。ここに語ったウィルキンソンは1907年12月11日にこの世を去りました。そして、その半月ほど前の11月末、50歳になったリー女史は日本の土を踏んでいたのです。―続く―(なかむら・しげる 横浜山手聖公会信徒)

礼拝堂祝福式は、竹田眞主教司式にて行われ、同施設の副代表理事、下条裕章司祭と、前田良彦司祭が補式を務めた。祝福式の参列者は礼拝堂にあふれた。礼拝堂は個人の祈りの場を想定した、プライベートな祈りの場となっており、ここで既に亡くなった方々の慰霊が安置されていた。山本さんは、「山谷で祈ることは、カルカッタ、ニューヨークのブロンクス、フィリピンのスラムで祈ることと同じです。世界中の全ての貧しい場所にはつながっていると言えるところではないでしょうか。私は山谷だからといって貧しい礼拝堂ではないと思います。祈りの場であり、祈りの気持ちを引き出す場であってほしいとの願いと祈りからこの礼拝堂を立てました」と語った。

山谷に祈りの場

「聖家族礼拝堂」完成

10月4日、ホスピス「きぼつこのいえ」の開設1周年記念に合わせて、祈りの部屋「聖家族礼拝堂」祝福式が行われた。

「きぼつこのいえ」(代表、山本雅基さん)は昨年10月、東京・山谷のドヤ(簡易宿泊所)街にオープンしたホスピスケア施設。長引く不

況の中で家や職を失い、路上生活を余儀なくされ、高齢で病気をかかえていても通院もままならない人々にも、尊厳ある最期を迎えて欲しいという祈りを込めて山本さんがオープンした。現在は末期癌や脳梗塞、心臓病などを患う末期患者21人が生活をしている。

「きぼつこのいえ」支援は、郵便振替



写真上・祝福式の様子(後ろに見えるのが礼拝堂)。下・聖家族礼拝堂内

0013
0-3-
6648
44、山
谷・すみ
だりパー
サイド支
援機構」。